

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.20
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp



一般質問が実現しました!

『臨床心理士』を配置



真岡市では平成20年4月より、臨床心理士の有資格者を1名配置することになりました。
この臨床心理士は、発達障がいのある児童・生徒や不登校児へのカウンセリング、さらに保護者や教員に対する相談業務等を行う計画となっており、これまで以上に各種指導の充実が図られるものと期待されます。

市民と市政のかけ橋になりたい!

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへでも伺いたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい!

お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を!

中村、20回目の登壇!

2月定例議会・一般質問



2月定例議会の質疑・一般質問が27日(水)、28日(木)の2日間にわたって行われました。
中村は28日のトップバッターとして登壇し、計2件の一般質問を行いました。

なお今回は、平成15年の初当選以来、定例議会の度に登壇してきた中村にとってちょうど

20回目の一般質問でした。(中面に関連記事)

中村が行った一般質問の内容

- 1.子育て支援・少子化対策について
 - (1) 待機児童の課題について
 - (2) 保育ママ、認定子ども園等の活用について
 - (3) 子どもの医療費助成について
 - (4) 不妊治療の助成について
- 2.ごみ処理施設の建設計画について
 - (1) 現在計画している施設の規模について
 - (2) 再生利用率向上の課題について
 - (3) 環境教育について

真岡市 平成20年度当初予算が決定

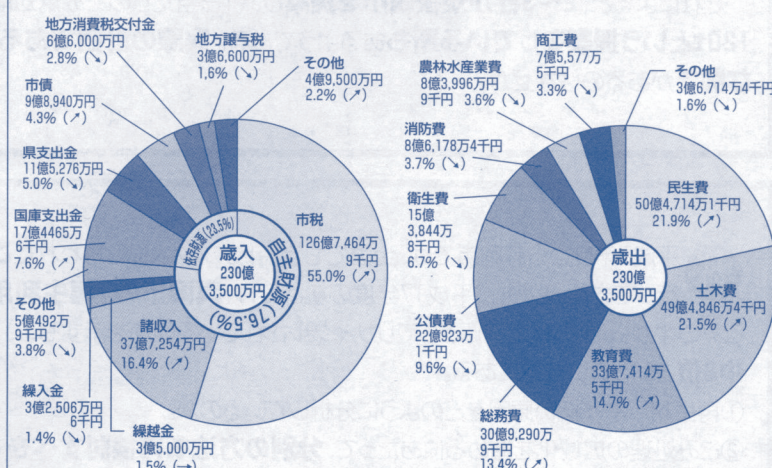
総額は **416億4,035万3千円** (前年比 38億7,788万4千円減)

平成20年度 会計別予算額

会計名	当初予算額
一般会計	230億3,500万円
国民健康保険	63億9,378万2千円
後期高齢者医療	4億4,297万7千円
老人保健	3億6,114万3千円
介護保険(保険事業勘定)	26億4,982万7千円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,291万円
インターチェンジ周辺開発事業	32億9,575万4千円
公共下水道事業	28億9,281万6千円
農業集落排水事業	3億6,667万4千円
工業団地造成事業	廃止
計	164億1,516万3千円
水道事業会計	21億9,019万円
合計	416億4,035万3千円

How much? 真岡市の市債償還予定額 (今後、市が返さなくてはならない借金)
一般・特別・水道事業会計+利子含む 総額 **556億2,349万3千円** (平成18年度末現在)
(前年比20億3,431万9千円減)

一般会計(230億3,500万円の内訳)



注:グラフ中の数字は構成比、↗↘はそれぞれ、前年度と比較して増額、減額、同額を示しています。

「見逃した!」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜19号までを見逃された方は、お気軽にご相談下さい。

次回発行予定日

7月6日(日)

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。



質問:中村かずひと

中村かずひと議会レポート

2月定例議会一般質問

答弁者：福田武集 市長
井田隆一 副市長
手塚 仁 保健福祉部長

1.子育て支援策・少子化対策について



質問 昨年10月末の段階で、真岡市では**89名**の子ども達が、**保育所への入所を希望しながら待機**している状況となっている。

平成20年度には、第5民間保育所が整備されるが、それと同時に、既存の公立保育所を廃止する方針も示されている。そのため、**待機児童の問題が解消されるか、正直心許ない印象を受ける**。市としては、今後どのような取り組みを行うのか。

答弁 平成21年度に策定を予定している新しい『**三つ子の魂子育てプラン**』（計画期間:平成22～26年度）の中で、保育ニーズ調査等を行い、保育に欠ける児童数を把握し、それに対応した**保育所整備計画を策定**していく。

質問 **保育所を補完する制度**として、『保育ママ』や『認定子ども園』等の活用方法について聞きたい。

①現在、真岡市内には**13名の保育ママ**が活動しているが、平成11年度には22名おり、**年々減少している**ことが分かる。**人材育成や待遇改善**をどのように図るのか。

②認定子ども園は平成18年に法律が施行し、スタートした制度である。これまで別々だった保育所と幼稚園の基準をミックスさせた保育施設を指す。待機児童の問題解消を図るものとして、**認定子ども園の制度も活用してみてもいい**かどうか。

答弁 ①保育ママ育成については、**真岡市保育ママ連絡協議会への補助、保育ママ育成補助**等を実施し、一定の成果を上げてきたと考えている。しかし、新たな人材確保も必要となっているので、**今後も引き続き、これらの補助を実施**していくとともに、新たな人材育成にも努めていく。

②認定子ども園については、**保育室、屋外遊技場、調理室**を設けるなど、認可保育所と同様の認定基準となっており、相当の**初期設備投資が必要**となる。

なお、真岡市では平成16年度から『**幼稚園併設民間育児サービス支援事業**』で、幼稚園に併設された保育施設に対して補助を行っている。

質問 県の方針により、真岡市でも平成18年度から**子どもの医療費助成**について拡充（対象年齢:小学3年生まで 現物給付:3歳児まで）が図られた。しかし、**宇都宮市が平成20年度から、小学6年生まで現物給付の対象とする**ように、子どもの医療費助成を独自に拡充させている自治体も多い。

この医療費助成の拡充は、小さな子どもをもつ市民から最も要望の多い施策である。**真岡市でも、独自に対象年齢の引き上げを考えるべきではないか。**

答弁 子どもの医療費助成については、県の補助を受けて引き上げを実施したものであり、更なる**独自の引き上げは県からの支援がなく、財政負担の増加**につながる。

また、対象年齢を引き上げたのは平成18年度からであるため、**当面は現在の制度で実施**していきたい。

質問 真岡市では現在、**不妊治療の助成事業**を実施している。しかし、県内の9市で**第2子以降も対象**としているのに対して、**真岡市は第1子のみ**に限定している。以前質問した際、『他市では第2子以降の申請は少ない』との答弁であったが、**申請がさほど多くないのであれば、財政的な負担も重く**のしかかるものではなく、**第2子以降も対象**とすることは**十分可能**であると考えているが。

答弁 不妊治療の助成事業については、平成18年度の実績で**助成件数23件、助成金額237万2千円**であった。

この事業の目的は、『子どもに恵まれない夫婦』のためのものであると考えている。そのため、**当面は第1子の誕生を願う夫婦を対象**としたいと考えている。

2.ごみ処理施設の建設計画について



質問 芳賀広域行政事務組合では、ごみ処理施設の規模等の課題について『技術提案書』という形で、**複数のコンサルタントに提出を求めてきた**。

それによると、**2～3社が規模縮小を提案**し、（1日当たりのごみ焼却能力について）**120tという提案をしている所もある**ようである。**実際の計画である180tと大きな開きがあるのはなぜか。**

答弁 ごみ処理施設における1日当たりの処理能力は、『循環型社会形成推進交付金制度』の算定方法によると、平成9年度と比較して**5%のごみ減量**をした場合は**136t、現状維持**の場合は**153t**となる。

しかし、継続的な**安全性確保のため180t**という能力規模とした。今後、**地域計画**を策定する中で、**適正な処理能力について検討**を進めていく。

質問 平成7年度から真岡市では、全国でも当時トップレベルと言われた**ごみの分別**を行ってきた。しかし、平成17年度の統計では、**真岡市の『再生利用率』**（全てのごみの中から、どの程度資源としてリサイクルされているのかを示すもの）は、**県内14市中8位**という低い位置にある。

①再生利用率が低い原因をどのように分析しているのか。

②ごみ処理の広域化を進めるにあたって、**分別の方法も再検討すべき**ではないか。

答弁 ①**再生利用率の高い市や町**では、再生利用の対象として、**溶解スラグや堆肥化用の生ごみ、プラスチック**等が含まれている。また、真岡市の場合、工業団地等の事業所では自社で対応しているため、事業所分の再生利用量が入っていないことから、このような再生利用率になったと分析している。

②**ごみの分別方法**については、真岡市と二宮町で同じ方法である**5町の担当者会議**で、ごみ処理の広域化に向けて**分別方法等について検討**を進めている。

質問 前回の12月議会で**市長は、新しいごみ処理施設について、井頭公園等とも違和感なく受け入れられる環境学習の場にしていきたいと答弁**していた。
具体的には**どのような取り組みを行う考えなのか**。
真岡市は平成16年に環境都市宣言をしている。環境都市には、それに相応しい環境学習・環境教育というものがあると思うが。

答弁 具体的には、
●アルミ缶やペットボトル、家具類、自転車等が**リサイクルされている様子を見学**することができる
●廃油からの石鹸づくり等、**自らリサイクルを実践**することができる
●焼却炉からの熱エネルギーを利用した**発電の仕組みを実際に見る**ことができる
といった環境学習施設として計画していきたい。
また、計画地周辺の平地林には野鳥や小動物が生息しているので、それらを活用した**自然観察の場として整備**していく計画である。

再質問・再々質問・要望



保育ママの人材確保について

質問 この課題については、これまでも再三質問で取り上げ、その都度『人材確保に努めたい』との答弁だった。しかし、**結果として増えていない**。これまで行ってきた人材確保の取り組みを踏まえて、**具体的にどのような改善を図るのか**。

答弁 これまで広報紙に掲載したほか、保育ママ連絡協議会会員が個別に勧誘をしてきた。しかし、保育ママの負担が大きくなることから、今後は**各ボランティア団体など新たな方面にも働きかけ**を行い、人材確保に努めていく。

子どもの医療費助成について

質問 最近、市民から『宇都宮市がうらやましい』という声が聞かれる。既に住んでいる人間がそう考えるのだから、これからどこに住むか検討している人々は尚更であろう。地域間競争の1つとして捉えるべきである。
宇都宮市が子どもの医療費助成を拡充させたことについて、どのような認識でいるのか。

答弁 宇都宮市は、**真岡市よりも財政力があるから実施できる**のであろうと考えている。

質問 真岡市は新年度予算案で、ゴルフ場への貸付金として10億円計上している。そうした**財政的に潜在能力のある市が、子どもや親たちが望む施策になると、なぜ尻込みをしてしまうのか**。
未就学児から小学3年生に対象を引き上げたことによる真岡市の財政負担は、約3000万円と試算されている。1学年につき1000万円と考えると、**あと6000万円上乗せすれば中学生まで助成できる**はずで、金額的にも不可能とは思えない。

答弁 各自治体の分に合った助成をするべきであろうと考えている。

不妊治療の助成事業について

質問 第1子についての申請件数が23件との答弁であった。**第2子以降の申請は、その1割程度と言われているので、2～3件という試算**になる。決して難しいものではない。県内では既に**9市が第2子以降も対象**としており、それが**スタンダードになりつつある**。1人の子どもにも恵まれない夫婦のみ対象と言われても納得できるものではないが。

答弁 この制度は、始まってまた3年目である。**今後、第2子以降も含めるか検討するかも知れないが、当面は1人の子どもにも恵まれない夫婦を対象**としたい。
また、助成額については他市と比べて遜色のないものと考えている。

要望

不妊治療の助成について、県内14市の取り組みを調べてみると、真岡市と同様に**所得制限を設けていないのは7市**。
1回の給付制限額が真岡市と同じ15万円、あるいはそれ以上というのが**6市**ある。
真岡市が取り分けて進んでいる訳ではなく、**第2子以降を対象としない理由にはならない**と考える。

ごみ処理施設の規模について

質問 今回、1日当たりのごみ処理能力を180tとした際、**年間の操業日数を**現有施設と同様の**260日間として計算**したとのことである。年間105日間休むことになるが、**それほどメンテナンスが必要なのか**。

答弁 新たに建設されるごみ処理施設については、**20年間は使用したい**と考えている。こうした施設の場合、**建設後10年を過ぎた頃から補修が必要**になると予想される。
ちなみに、現在の真岡・二宮地区清掃事務組合のごみ処理施設で、年間8000万円の補修費用を要している。経年劣化にかかる補修は想定に入れるべきと考えている。

質問 先程、**コンサルタントの2～3社が規模縮小を提案**した話をしたが、逆に**180tにすべきと提案したのは何社**あったのか。

答弁 今回、5社が『技術提案書』を提出したが、**180tにすべきという提案はなかった**と記憶している。

ごみの分別方法について

質問 **新たなごみの分別方法は、いつ頃決まる予定なのか**。ごみの分別方法によっては、焼却すべきごみの量は変わってくる。また、**どういうものを燃やすのかによって、適した炉のタイプも変わってくるはずである**。
本来は、**処理能力や炉のタイプが決まる前に決定すべきもの**と考えるが。

答弁 現在、担当者による会議を行っているが、**今後住民への周知徹底も必要**となる。したがって**しばらく時間を要するもの**と考えている。

要望

今回、県内他市の状況を調べてみて**興味深かったのが、栃木市の取り組み**である。
同市の**再生利用率**は、平成14年度に15.2%だったものが、**プラスチックトレイの資源ごみ化を実施した15年度、19.3%**に跳ね上がっている。
今後、ごみの分別方法を検討する際、ぜひ、そうした事例も参考にして欲しい。



議会運営委員会

先進地視察研修



会津若松市

同市では、昨年7月から『議会基本条例』の制定に向けて準備を進めている。

条例案の中で特に目を引いたのは、常任委員会の運営方法。執行部に対する質問だけではなく、議員同

士による議論『自由討議』に重きを置こうとしている。

そのほか、会派を横断してテーマ別に月1〜2回行われる勉強会や、一般質問を行う議員の多さ（12月議会では30名中23名が質問）に感心させられた。



いわき市にて

同市は、平成14年に東日本では初めて一般質問の『一問一答方式』を採用した。

真岡市では、質問は再々質問までという回数制限があるが、同市ではそうし

た制限を設けていない。

一般的に回数制限がないと、感情的な議論に陥りやすいと言われるが、同市によれば『そのようなケースは見られない』とのことで、“撤廃論者”の自分としては勇気が出た。

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。（議員1人あたり）

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の個人負担です。
※議員日当（3,300円×3日）の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額	21,300円	出所	議会費のうち旅費
内訳	宿泊費、相手先みやげ代、議員日当など		

※なお、視察の詳しい所見については、中村のホームページにて掲載予定です。

ぜひお越し下さい！

第4回

中村かずひこ 市政報告会

日時

5月12日(月) PM7:00~

会場

大谷公民館（高岡酒店西側）



コラム

ずーむあっぴ

質問：真岡市が今後、子どもの医療費助成を拡充させるとしたら、あなたはどれが最も「助かる!」と感じますか？

今回の一般質問に先立ち、私は小さな子どもをもつ親約40名に、そのようなアンケートを実施してみた。

- ①助成そのもの（現在小学3年生まで）の対象年齢引き上げ
- ②現物給付（現在3歳児まで）の対象年齢引き上げ
- ③現物給付の自己負担分（500円）の廃止
- ④現状で満足してる ※どれか1つだけ選んで下さい

1つしか選べないことに不満を感じた方もいたかも知れないが、親が考える“優先順位”を知りたかったので、批判を覚悟の上であえてそうすることにした。

これまでも様々なアンケートを試みてはきた。しかし、今回メールでアンケートを送った直後から返信が相次いだことには、正直なところ訊いたこちらが驚かされた。そして、①「助成そのものの対象年齢引き上げ」を求める声が8割以上を占めたことにも意外な思いがしている。

若い親たちが考える『優先順位』

親たちには、親たちなりの明確な“優先順位”があるということを今回思い知らされた。

「財政的な負担を強いられる」「不必要に子どもを診察させようとする親が増える」子どもの医療費助成を拡充させようとする際、必ず出される意見である。確かに、“あれもこれも”拡充させようとするれば、そうした懸念も否定はできない。

しかし、親たちの声に耳を傾けながら、可能な部分から突破口を切り開く術は、いくらでもあるのではないだろうか。

ちなみに、子どもの医療費助成が拡充された平成18年度、真岡市は新たに約4,000万円の負担増が見られたが、19年度になると約3,000万円の減少（対18年度比）したらしい。

そうした数字を見ていると、そもそも「不必要に子どもを…」という発想自体、親たちに対して失礼な話ではないかと感じる。

中村かずひこと 未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を支える「中村かずひこと未来をつくる会」では個人献金に限り、カンパを受付けています。頂いたカンパは政治資金規正法にもとづいて適正に処理します。

※入会希望の方は

中村までご連絡下さい。

〔振り込み先〕
真岡信用組合本店
普通口座 2099671

中村かずひこと未来をつくる会
代表 中村和彦



中村かずひこ活動日誌

- | | |
|--|---|
| <p>1/4 谷津干潟愛護研究会代表・森田三郎氏と面会（於：千葉県習志野市）</p> <p>5 真岡市消防団出初式</p> <p>7 真岡青年会議所理事会</p> <p>8 賀詞交歓会</p> <p>9 真岡青年会議所通常総会</p> <p>13 成人式</p> <p>15 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>16 合併協議会を傍聴</p> <p>18 京都伝統染織学芸会主宰・富山弘基氏と面会</p> <p>日本青年会議所京都会議（いずれも京都市内）</p> <p>19 スポーツ交流館・市民活動推進センター落成式</p> <p>2 市議会だより編集委員会</p> <p>23 真岡小学校にて朗読劇（「ひばりの会」の活動として）</p> <p>28 あいさつボランティア</p> <p>30~31 議会運営委員会先進地視察（福島県会津若松市・いわき市）</p> <p>2/1 真岡中学校立式</p> <p>4 あいさつボランティア</p> <p>国民健康保険運営協議会</p> <p>5 真岡青年会議所理事会</p> <p>6 熊倉町区長（1〜4区）と意見交換会</p> <p>8 議員協議会</p> <p>12 真岡市男女共同参画社会づくり市民会議</p> <p>13 議会運営委員会</p> <p>真岡青年会議所例会</p> <p>14 国民健康保険運営協議会研修（於：宇都宮市）</p> <p>15 会派勉強会</p> <p>真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>自治基本条例シンポジウム（於：宇都宮市）</p> <p>17 とちぎ協働フォーラム IN HAGA（於：益子町）</p> <p>18 あいさつボランティア</p> <p>19 「ひばりの会」定例会</p> <p>交通安全市民大会</p> <p>20 議員協議会</p> <p>2月定例議会開会</p> | <p>2/21 一般質問の通告書を提出</p> <p>※その後、市の担当部署と内容のすり合わせ</p> <p>23 国道408号真岡北バイパス開通式</p> <p>25 あいさつボランティア</p> <p>27 質疑・一般質問1日目</p> <p>28 質疑・一般質問2日目</p> <p>※この日、1人目として登壇</p> <p>29 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>3/1 日伯100周年イベント実行委員会</p> <p>3 あいさつボランティア</p> <p>県議会を傍聴（真政クラブ・公明の活動として）</p> <p>4 総務常任委員会</p> <p>5 真岡青年会議所理事会</p> <p>6 予算特別委員会通告日</p> <p>7 真岡中学校卒業式</p> <p>真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>9 台若復興30周年記念式典</p> <p>10 あいさつボランティア</p> <p>予算特別委員会</p> <p>11 真岡青年会議所例会</p> <p>12 議員協議会</p> <p>2月定例議会開会</p> <p>市議会だより編集委員会</p> <p>議会運営委員会</p> <p>15 北関東自動車道・真岡IC開通式</p> <p>日伯100周年イベント実行委員会</p> <p>17 あいさつボランティア</p> <p>19 真岡小学校卒業式</p> <p>真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>22 都市政治フォーラム研修会（於：明治大学）</p> <p>23 キッズスポーツフェスタ（真岡青年会議所40周年記念事業）</p> <p>24 あいさつボランティア</p> <p>26 明治大学公共政策大学院卒業式</p> <p>28 真岡青年会議所コミュニティネットワーク委員会</p> <p>31 「ひばりの会」音訳作業</p> |
|--|---|